

ホタテガイ養殖管理情報

成貝向けに適切な養殖管理を行い親貝の確保を！

安定した稚貝の確保のためには親貝となる成貝の生産数を増やす必要があります、半成貝出荷予定の一部を成貝向けにすることも必要です。成貝の生産には半成貝よりも適切な養殖管理が必要で、養殖籠1段当たりの収容枚数は少なくし、入替作業時に以下の点に注意してください。

1 異常貝とは？

外套膜（通称、ヒモ）に傷ができて、そこから出血した血が固まったものが内面着色です（図1）。貝殻は外套膜で作られますが、外套膜に傷ができるとその部分で貝殻が作れなくなるため、欠刻になります。また、落下など物理的衝撃でもエラやウロ付近に内面着色が見られます（図2）。いずれも異常貝の原因は病気ではなく、“ケガ”です。

2 成貝向けの貝の養殖管理上の注意点

- （1）成貝を生産する場合は、今春に入替を行い、1段当たりの収容枚数を少なくしましょう。
 - （2）成貝向けとして丸籠やパールネットに入れ替える場合には異常貝の少ない施設の貝を使いましょう。
 - （3）丸籠（蛙又）は貝が擦れてケガしやすく、へい死しやすいので（図3、4）、なるべくパールネット（ラッセル）を使いましょう。
 - （4）不安定な養殖施設は波浪や速い潮の影響を受けやすいので、ホタテガイがケガをしないように養殖施設を安定させましょう（図5）。
- 成長が良く、調整玉の沈むペースが速い場合でも、過剰な玉付けで調整玉を流すことのないように気をつけましょう。籠数が多い施設では、適切な玉付けや養殖管理が難しくなるので籠の下げすぎに注意しましょう。
- （5）ホタテガイにケガをさせないという意識を持ち、丁寧に扱いましょう。

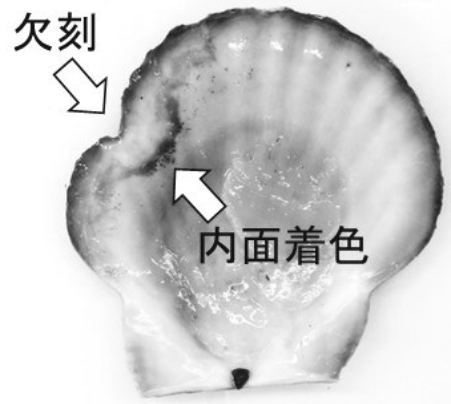


図1 異常貝



図2 エラやウロ付近の内面着色



図3 丸籠（蛙又）のテグスの結び目に食い込むホタテのヒモ

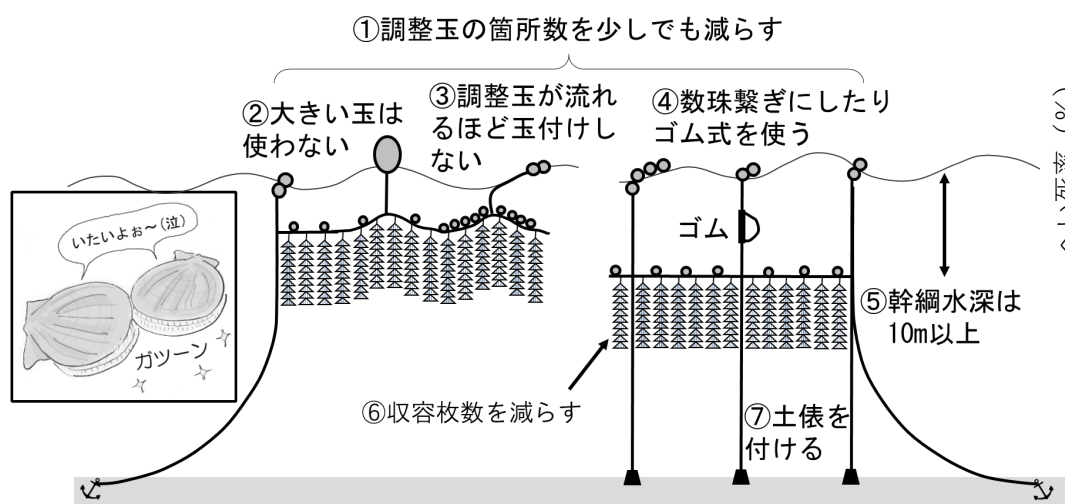


図5 養殖施設のイメージ（左半分が不安定施設、右半分が安定施設）

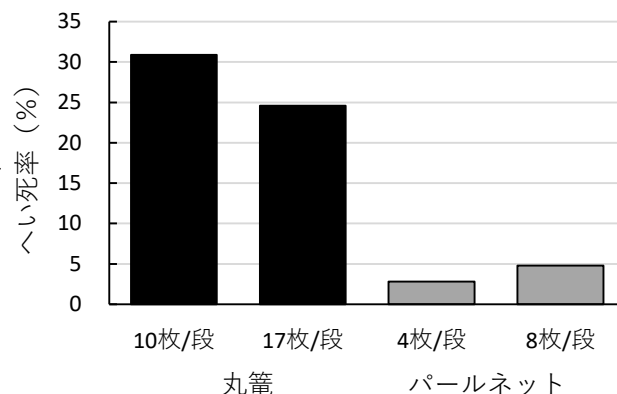


図4 3月に入替を行った丸籠とパールネットの10月のへい死率（令和2年10月成貝向け新貝の調査）